

栄光への一秒

2021年9月1日

1 / 5

皆さんは、自転車競技というスポーツをご存知でしょうか。日本ではあまりなじみがないスポーツだと思います。しかし、ヨーロッパにおいて自転車競技は、サッカーの次に人気がある競技とも言われています。

自転車競技といっても、山間部の未舗装路を走る「マウンテンバイクレース」、不整地のオフロードで行われる「シクロクロス」、傾斜がついた競技場内で行われる「トラックレース」など様々あります。その中でも私が一番好きな、舗装路を走る「ロードレース」についてご紹介させていただきます。

ロードレースとは

ルールはシンプルで、自転車で舗装路を走り、最初にゴールした人が勝ちです。最初にゴールした人が勝利と聞いて、個人スポーツと思われる人もいらっしゃるかもしれませんが。しかし、一般的にロードレースはチーム戦で行われます。各チームにはエースがいて、ほかの選手はそのエースのために身を挺してアシストします。

右の写真をご覧ください。勝利してガッツポーズをしている人の後ろで仲間がガッツポーズをしています。チームメイトとの絆もロードレースの見どころです。

続いてはどのようなレースが行われているかを紹介いたします。

@deceuninck_qst より



<https://pressports.com/2020/11/02/2021letour-route/> より

Tour de France (ツールドフランス) について

ツールドフランスと聞けば、耳にしたことがある人もいるのではないのでしょうか。ロードレースの中で一番有名な大会と言っても過言ではないツールドフランスについて、簡単に紹介します。

ツールドフランス2021では、コースは左に示したように、フランス国内をぐるっと一周し、最後はパリ・シャンゼリゼに帰ってくるルートとなっていました。コースは毎年変わりますが、アルプス山脈とピレネー山脈の山岳ステージは、毎年のように選手たちを苦しめています…

選手は毎日150~200kmを走り、休息日の2日を含んだ23日をかけて、レースを行います。参加人数は、1チームが8人の23チームで、計184人で一斉に走ります。

栄光への一秒

2021年9月1日

2 / 5

ロードレースでは各項目のトップの人に、ジャージが与えられます。この特別なジャージを着用することは名誉なことであり、ジャージの死守のために戦います。

ジャージは4種類あり、特別なジャージ故に着用するだけで目立ちます（右の写真では各ジャージ着用者4人+前日のステージ優勝者?）。

左からの二番目の黄色いジャージが、総合リーダージャージともいわれる「マイヨ・ジョーヌ」です。各ステージのフィニッシュタイムの合計が最も少ない人、言い換えれば一番早い人が着用することのできるジャージです。大会最終日にこのジャージを着用している人が総合優勝となります。



@LeTour より

真ん中の緑のジャージが、ポイント賞ジャージの「マイヨ・ヴェール」です。各ステージのゴールや中間地点にはスプリントポイントが設置されています。

左の赤い水玉模様のジャージが、山岳賞ジャージの「マイヨ・ブラン・ア・ボワ・ルージュ」です（名前が長い…）。山岳ステージにはいくつもの上りがありますが、主要な上りの頂上には山岳ポイントが設置されています。

力や脚質的に総合優勝を狙うことが厳しい人達は、最初からこれらのポイント賞ジャージを狙っていることもあります。

最後のジャージは、一番右の白いジャージです。これは「マイヨ・ブラン」と呼ばれ、ヤングライダー賞の証です。25歳以下の選手でフィニッシュタイムの合計が最も少ない人が着用し、将来のマイヨ・ジョーヌ候補みたいな意味合いです。しかし、最近では若手の成長が著しく、今年のツールドフランス覇者の選手は22歳（ちなみに2連覇なので昨年度の優勝時は21歳）と若く、25歳以下とする年齢制限を変える必要があるのではと、個人的には考えています。（笑）



@LeTour より

栄光への一秒

2021年9月1日

3 / 5

レース展開

では、どのようにレースが展開されているかを簡単に紹介します。ツールドフランスのような長期間のレースや一日で行われるワンデーレース、山岳ステージや平坦ステージでレース展開は異なりますが、今回は一般的な流れで紹介していきます。

スタート直後

逃げたい選手達が一斉にアタックを仕掛けます。逃げる選手達は、エースではなくアシスト役の選手です。理由は様々ですが、真っ向勝負をしても勝ち目がない選手が逃げ切り勝利を目指して逃げる時や、山岳ポイントやスプリントポイントに獲得を目標として逃げます。中には、逃げることでカメラに抜かれやすくなるため、自分やチーム、スポンサーの名前を売るために逃げることもあります。

逃げ集団の容認

逃げ集団は、数人～多い時には数十人で形成されます。

自転車の一番の敵は、空気抵抗です。そのため、逃げ集団は右の写真のように一列になり、定期的に先頭交代をしながら逃げます。

後ろの人は、前の人より約20～40%少ない力で走ることが出来ます。



@LeTour より



一方でメイン集団は、横に広がり力を温存します。逃げ集団との時間差や残りの距離を計算し、追いつけるタイム差をコントロールし、走ります。

レースは4～5時間行われるため、途中でチームスタッフから補給食をもらい、自転車の上でもぐもぐタイムをしています。

また、選手も人間であるため、レース中にチーム内でまとまってトイレタイムを取ることもあります。しかし、トイレタイム中に故意にペースを上げて逃げることは暗黙の了解で禁止です。

～豆知識～

暗黙の了解を他にも紹介すると、総合リーダージャージを抱えるチームがメイン集団の先頭を引くことや、落車やパンクなどのトラブルに便乗したペースアップの禁止などがあります。

栄光への一秒

2021年9月1日

4 / 5

逃げ集団の吸収

レース終盤につれてメイン集団のペースは一気に上がっていき、ゴール前の数km～十数kmで逃げ集団を吸収します。ペースを上げるということは、前の選手はそれだけ力を使ってしまいます。ペースが上がったメイン集団は、このように縦一列になります。逃げ集団は先頭交代をしていますが、逃げ集団を吸収するためのペースアップはアシスト役の選手が全力で行い、力を使い果たした選手たちが集団から離脱していきます。離脱した選手たちはタイム切れにならないように次の日のアシストに向けて体力を回復させます。



@LeTour より



<https://specialized-onlinestore.jp/contents/blog/detail/604> より

ゴールスプリント

逃げ集団を吸収したメイン集団は、いよいよゴールスプリントに備えます。ゴールスプリントの直前は、各チームエースプリンターを後ろに配置し、チームで一列になります。これによって、エースにかかる空気抵抗はかなり減少します。チームの先頭はどんどん離脱していき、ゴール数百m手前からエースプリンター同士の直接対決が始まります。この時の時速は70～80kmになることもあり、一瞬の判断ミスで勝負がついてしまいます。

ゴール

スプリント勝負では200km近く走行し、わずか数cmで決着することもあります。エースは、アシスト役の選手の思いを乗せて、力を振り絞ります。それ故に、勝った時はチームメイトみんなで勝利を喜びます。これがロードレースの面白さです。

また、ツールドフランスなどの何日もかけて行うレースでは、合計タイムで争いますが、数秒で優勝や表彰台を逃してしまうこともあります。一日だけ調子が良くても総合優勝はできません。毎日のレースでライバルたちから遅れをとらず、勝負の日にしっかり勝つ。これは非常に難しいことで、23日もあればコンディションの良くない日もあります。そんな時には、チームメイトが全力でサポートします。

栄光への一秒

2021年9月1日

5 / 5

終わりに

ここまでレースの簡単な説明をしてきましたが、少しは興味を持ってもらえたでしょうか。ロードレースは、まだまだ奥が深く、ここでは全部を説明できてはいません。気になる方は、是非ご覧になってください！！

そこで、最後になりますが、ロードレースの観戦ポイントをまとめましたので、参考にいただければと思います。

①ゴール前の位置取りや仕掛けるタイミング

ゴールに直結するため、各チームの思惑が交差します。何度かレースを見ると、そのあたりの動き方がわかってきて、さらに面白くなります。

②絆

ロードレースはこれに尽きると思います。チームメイトみんなで一人のエースを支え、勝った時には泣きながら喜ぶ時もあります。それだけ勝つことは難しく、栄光あることだと思知らされます。

また、絆はチームメイト間だけではなくありません。敵として走っている選手でも、一緒に逃げ集団になれば協調しあう仲間になります。逃げ集団がメイン集団に吸収される際には、お互いに健闘を称えあいながら、グータッチをすることもあります。チームメイトを超えた絆も見どころです。

③旅行気分を味わえる

レース展開が遅く、ずっと動きのないレース映像をみるのも面白くない、と思われている方も多いかもかもしれません。しかし、ヨーロッパで行われているレースでは、大抵のレースでヘリコプターによる空撮が行われており、世界遺産や街並み、歴史的建造物などが放送されます。日本とは全く違う風景を空からみるのも悪くないです！

追記

大学時代に趣味で始めたサイクリング、自転車一つでどこまでも進めることに感動を覚えた私は、友人と四国一周や九州一周を達成しました。この話は、次回に取っておきましょう。

(写真：高知県須崎市横浪半島にて)

